

2017年4月26日

## 助成事業実施報告書

特定非営利活動法人  
団体名 ハ王子チャイルドライン  
代表者・役職名 氏名 木村真実

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

2016 受けるボランティア養成講座

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2000年5月 全国子どもの日チャイルドラインに参加、2002年3月 週2日の常設を開始  
2002年8月 NPO法人認可。  
現会員 35名 支援会員 29名 3団体

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもの声を電話を通して聴き取り、少しでも多くの子どもへの支えとなるための受けるを養成する。毎年開催することによって受けるを増やし、今まで以上の活動が続けられることを期待する。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

11月から3月まで全11回の講義、ロールプレイ。  
6月から企画、講師依頼、9月広報と準備する。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今年は9名の申し込みがあり、結果として3名が引き継ぎ「受ける」としての活動を希望し、実際の電話を受ける準備が始まる。講座の内1回を公開講座とし、広報した結果8名の方が受けた。もっと多くの方に参加してほしいが、しかし、参加者からは良い反応があったので、今後も続けたい。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

例年、応募者が少なく、課題となっており、良案が出ず、広く意見を求めたい必要がある。興味を持つ子どもはいるので、多くの方法を考えていきたい。

### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり。特になし



## 2016 受け手養成研修

# 子どもの「聴いて・・・」を受けとめて

チャイルドラインは、電話を通して子どもたちの声を受け止める活動です。子どもたちは自分の大切な話をしてくれます。悩みをことばにし、それを私たちが受け止めることで、子どもたちは力をとりもどしていきます。電話を受ける受け手となって一緒にこの活動を担っていただけませんか？下記の養成研修にぜひご参加ください。(受け手は無償ボランティアです) また、受け手を希望しなくても、「聴く」ということを学びたい方、プログラムに興味をもたれた方も研修に参加いただけます。

- **日程** 11月5日(土)から2017年3月18日(土)まで全11回  
詳しいプログラムは下記を参照ください(受け手希望の方は全回出席を前提とします)
- **場所** 由井第一小学校(予定)(京王北野駅北口徒歩約3分)
- **受講料** 全回通して7000円 学生6000円(初日、受付に一括お支払いください)  
一部講座受講可 1回700円  
(ロールプレイ希望の方は7、8、9回連続受講してください)
- **受け手の年齢** 18歳から55歳までの方(受講時)
- **申込み** Eメール [hachiouji@coccoro.net](mailto:hachiouji@coccoro.net) (裏面の申込書の内容をお知らせください)  
FAX/ TEL 042-627-1398 (裏面の申込書をFAXしてください)  
(問い合わせもこちらまで)
- **締め切り** 10月末日

### 受け手養成研修プログラム

\*時間は第5回を除いて全回10時から12時30分までです。(第5回は19時から21時まで)

	研修日		研修内容	講師・主催(敬称略)
1	11/5	土	チャイルドラインとは・	スタッフ
2	11/12	土	困難な状況の中で生きる子どもたち (虐待の現状を知る)	子ども家庭支援センター相談員
3	11/26	土	子どもの人権とそれを取り巻く問題 (弁護士の関わりを通して)	内藤 裕子 (武蔵野法律事務所 弁護士)
4	12/10	土	思春期の性・男子の性 (あなたは性的こと話せますか?)	村瀬 幸浩 (元一橋大学講師) (“人間と性”教育研究協議会幹事)
5	12/16	金	遊びを通して育つ子どもの力 (子どもは自分の力を試して自分を知る)	天野 秀昭 (日本最初のプレーリーダー)
6	1/14	土	グループワーク (あなたの当たり前はみんなの当たり前?)	スタッフ
7	1/28	土	「聴く」ということ	スタッフ
8	2/4	土	電話のロールプレイⅠ	スタッフ
9	2/18	土	電話のロールプレイⅡ	スタッフ
10	3/4	土	自己開示・気づきのワーク (人生の棚おろし)	スタッフ
11	3/18	土	電話のロールプレイⅢ	スタッフ

# チャイルドラインとは

「お話ししてもいいですか?」と始まる電話を通して、「うれしい、悲しい、さびしい、イライラする…」子どもたちからいろいろな気持ちが届きます。私たちは様々な声から感じられる「声の表情」を受け取りながら、受話器の向こうの声に耳を傾けます。忙しいこの時代だからこそ、「聴いてほしい」「認めてほしい」と思っている子がたくさんいます。自分の気持ちを聴いてもらうというのは、とても大切なものです。気持ちをわかってもらえると、ホッとして、「この自分でいいんだ」と思えたり、「じゃあどうしよう」と次に向かえるようになります。自分の味方でいてくれる人がいるだけで頑張れる…。私たち大人が話を受け止め理解していくことには、それだけの力があるのではないかと考えています。

★チャイルドラインは全国 70 の団体が連携して、毎日 16 時から 21 時まで、フリーダイヤル (0120-99-7777) で 18 歳までの子どもからの電話を受けています。2015 年度は年間約 20 万 3 千本の電話を受けました。電話を受けているのは研修を受けたボランティアです。

★八王子チャイルドラインは 2002 年から活動を始め、現在は全国のチャイルドラインの団体の一つとして毎週水曜日 18 時から 21 時、土曜日の 15 時から 18 時の時間帯に電話を受けています。受け手になっていただくと、月 2 回水曜日か土曜日にシフトに入っていただきます。

## 研修参加者のことば

## 電話を受けている人のことば

学ぶことの全てが新しいことばかりでした。

「遊育」(遊ぶ中で育つ)ということを知りたかった。

「聴く」ことの難しさを実感しました。

始め弱かった声が終わるころには元気になって、ホッとしました。

周りをとても気にしている子が多い気がします。

周りの大人に気づいてほしいなあと感じます。

042-627-1398 へ下の申込書に記入してFAXしてください。  
Eメールで申し込む方はこの内容をお知らせください

(10月末締め切り)

八王子チャイルドライン受け手養成研修 参加申込書			
(フリガナ) お名前		年齢	職業
住所〒		電話(携帯)	FAX
ボランティアの経験	あり( )	なし	
子どもとかかわる経験	あり( )	なし	
応募動機(必ずお書き下さい)			



「フルプレイ実習」  
「かけこ（子ども役）」

「受けこ」「オバガーバー」と三役を交替して  
実施



三月十八日 最終日 振りかえり作業中